

平成30年度 佐賀市立久保泉小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
雄飛学園共通目標「元気あふれる学校」 久保泉小学校目標 「夢をもち進んで学ぶ心やさしい子どもの育成」 佐賀県及び佐賀市の教育方針に則り、保護者や地域の願いに応えるべく、未来の創り手となるために必要な児童の資質・能力の育成を図る。 かしこい子 ・既存の知識を活用し、筋道を通して考え、問題解決できる子 ・他者と学び合い、自分の考えを進んで表現できる子 やさしい子 ・思いやりの心を持ち、友だちと仲良く活動できる子 ・よいことを進んで行い、きまりやマナーを守ることができる子 ・社会や地域に目を向け、人や環境を大切にできる子 たくましい子 ・めあてをもって最後までがんばることができる子 ・進んで、元気に気持ちよいあいさつができる子 ・健康で安全な生活を実践できる子 児童の「出番」をつくり、「役割」を与え、「承認」して伸ばす教育の実践	1 学力向上を図る。 ・国語科の授業実践を通した校内研究の充実を図る。 ・「ステップ1、2、3」の周知による授業改善。 ・読書の奨励。 ・朝のスキルタイムでアウトプット(発話・速写等)の強化を図る。 2 雄飛学園教育を推進する。 ・開発的生徒指導(出番・役割・承認)を推進する。 ・幼保小連携や9年間を見通した小中連携を推進する。 3 いのちと人権教育を推進する。 ・自分を大切にし、友達を大切にする子どもの育成を図る。 ・一人一人の子どもの理解と心の教育を充実させる。 ・支援を要する子どもへの校内体制を充実させる。 4 子どもへのまなざし運動と市民性を育む教育を推進する。 ・地域に根ざした教育活動を進め、学校行事・地域行事の中で子どもの出番を広げていく。 5 働き方改革を推進する。 ・外部からの依頼については、視点を定めて精選する。 ・会議の縮減、定時退勤日の設定等、時間を意識した働き方を定着させる。

達成度

A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①学力向上を図る							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・学習状況調査結果 ・CRT検査結果	・5、6年は4月の学習状況調査結果に対して12月は1割増を指標とする。 ・4年生は12月の学習状況調査に於いて0.90を指標とする。 ・2、3年はCRT検査に於いて1.0を指標とする。	・既習事項を振り返り、定着を図るようなドリルやプリントに取り組ませる。 ・家庭学習目標時間を意識させ、学習強化週間においてまなざしカードを活用する。	C	・12月の学習状況調査に於いて、4月の結果より6年生は1割増だったが、5年生は1割減だった。 ・4年生は12月の学習状況調査に於いて、国語と算数は0.90以下だったが理科と社会は0.90以上だった。 ・2、3年生はCRT検査に於いて、1.0以下だった。	・既習事項を振り返り、ドリルやプリントで間違えた問題を繰り返し解いて定着を図る。 ・各学年の家庭学習での学習目標時間を意識して学習させる。
		・授業改善状況 ・読書量及び習慣 ・スキルタイムの状況	・「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「振り返り」についてstep2以上を達成する。 ・図書室の本の個人貸し出し冊数の目標を低学年、中学年、高学年ごとに決めて、読書の奨励をする。「読書活動の充実」児童の意識調査85%以上を指標とする。 ・朝のスキルタイムを活用して音読に取り組み、学力の基礎固めをする。	・授業のまとめを自分の力で書くようにさせることで、思考力・表現力を培うようにする。 ・「のびるタイム」の時に、フラッシュカード等を活用して、出来るだけ多くの児童に声を出させ、自分の声を相手に伝えることに慣れさせる。 ・毎週のまなざしカードや家庭学習などをチェックし、読書習慣が身に付いてきたか把握する。 ・週末は、家での読書習慣を付けるため、ブックバックの週末持ち帰り呼びかける。また、実施状況を図書委員会に調査させ、達成状況を全校に知らせる。そのとき、図書委員会おすすめの本を紹介する。	B	・「めあて」「書く活動」「話し合う活動」「まとめ」「振り返り」の流れを意識しながら授業を進めることができたが、自分の考えを友達に伝えることを苦手とする児童が見られた。 ・図書室の本の個人貸し出し冊数の目標に対して、83.1%の児童が達成することができた。 ・朝の「のびるタイム」を活用して「音読、計算、聴写・視写、フラッシュ」に取り組むことで学習に対する意欲付けをすることができた。	・「めあて」に対する「まとめ」を行い、授業の振り返りを自分の言葉で書いたり、「話し合う活動」では自分の考えをグループから全体に伝える場面を確実につくるようにする。 ・図書委員会の活動を生かしながら、週末の家での読書習慣を身に付けさせる。 ・「のびるタイム」で、引き続き「音読、計算、聴写・視写、フラッシュ」に取り組むことで、集中力を身に付けるとともに学力の向上につなげる。
	○校内研究の充実	・研究授業 ・日常の授業	・全学級でテーマに基づいた提案授業を公開し、授業力向上及び「根拠を明確にしながら自分の考えを表現する力」の育成をめざす。 ・「考えを伝え合う学習」児童の意識調査90%以上を指標とする。	・本時の流れや単元の流れを明確にして、子どもたちに見通しを持たせることを継続する。 ・線を引かせたり色分けさせたりする読み取りの手立てをとることを継続する。 ・発表のしかたの話型を児童に提示して、話し合いに取り組ませる。	B	・本時の流れや単元の流れを明確にして、子どもたちに見通しを持たせることを継続できた。 ・線を引かせたり色分けさせたりする読み取りの手立てをとることを継続できた。 ・校内研では職員間でのグループを作っていたが、話し合いの時間が取れず、個人で進めてもらう形も多かった。	・成果をふくらませるため、本時の流れや単元の流れを明確にすることや、読み取りの手立てをとることは継続していく。 ・校内研のグループが機能するように、グループの人数を増やし多くの意見を聞くことができるようにし、話し合う時間をきちんととるようにする。
②雄飛学園教育を推進する							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○小中連携の推進	・三校合同授業研究会 ・三校合同研修会 ・児童生徒間の交流	・「確かな学び部」の構想に基づき、全員が各校の授業研に参加し小中連携による研鑽を深める。 ・「すこやかな育ち部」「豊かな心部」の構想に基づき、全員が研修に参加し小中連携による研鑽を深める。 ・遠足的行事、宿泊学習、修学旅行、部活体験等の行事を利用して、小小及び小中の児童生徒間の円滑な交流を図る。児童の意識調査で85%以上を指標とする。	・中学校教員は、いずれ入学してくるだろう児童の学習の様子を観察し中学校の教育課程の一助とする。小学校教員は卒業後の児童の育ちを観察し、現指導内容を再吟味する機会とする。 ・宿泊学習では5年生と、修学旅行および部活体験では6年生においてそれぞれ金立小と交流することで、金泉中1年生へのスムーズな接続を図る。 ・生徒指導上の課題については、PTAや地域の協力を受け入れていく。	A	・5年宿泊学習、6年生長崎修学旅行等を金立小と日程を合わせること、児童どうしの触れ合う機会が多くなり、活動内容も工夫することで、お互いに交流を深めることができた。(春の遠足についても計画していたが、雨で中止となった。)意識調査では目標値をほぼ達成。 ・全職員が2校の授業研究会に参加することができ、本校の取組を見直し授業の改善に生かすことができた。 ・雄飛学園のまなざしカードを時期を揃えて実施することで、中学校区として家庭の協力が得やすかった。さらに、合同研修会で互いの結果について伝えた。	・学校間での授業交流、授業参観の活性化を目指して新しく取り組んでみたが、新たな課題も出た。意義を大切に考えながらよりよい方策を探す必要がある。 ・それぞれの学校での独自の取組の中にも素晴らしい実践があるので、それぞれの部会で交流し合って、よいところは取り入れていく。 ・PTAや地域の行事で児童生徒間の交流が活性化できている部分も多い。今後うまく連携をとっていきたい。 ・職員相互の連携強化についても方策を探っていきたい。
③いのちと人権教育を推進する							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
	●いじめ問題への対応	・人権教育の充実 ・いのちいじめを考える日の手立て	・職員研修を充実させ、「いじめのない学校を創る」という意識を高める。 ・いじめや問題行動に対して組織で対応できる体制作りをする。 ・アンケート実施、及び結果を全職員で共有し、いじめの早期発見と児童の実態把握に努める。	・月1回全校で参加体験型の人権教室を開く。 ・いじめアンケートの結果を職員で共通理解をしながら、該当児童やクラスへの指導に生かす	B	・月に1回の参加型人権教室を実施できた。また、人権習慣の中で、ほかほかの木で友達の良いところ見つけをし、人権意識を高める取り組みを行った。 ・いじめアンケートや生活アンケートを実施し、生徒指導協議会で情報交換・共通理解を図った。	・人権集会や人権教室は内容によっては、1～6年全員を対象にすると難しいこともある。全体でばかりでなく学年グループでの実施についても検討したい。 ・いじめの未然防止のために、気になる事案、気になる児童についての情報共有がよりよくできるように生徒指導協議会の持ち方を検討する。

教育活動	●心の教育	【あいさつ・あんぜん・ありがとう】 ・人権教室の実施 ・教育相談、特別支援教育の充実(支援体制強化)	・月1回の人権教室で全校児童に心の教育を図る。 ・「おもいやり・ぽかぽか言葉」児童の意識調査で95%以上を指標とする。 ・教育相談・特別支援対象児童の共通理解と支援体制強化を図り、個性や多様性を尊重する風土を創る。	・学期に1回気になる子について話し合い共通理解を図る。(7月、12月、3月) ・スクールカウンセラー(5月～3月、12回)への相談を啓発する。 ・校内支援体制の作成、実行、修正をする。 ・発達障がいについての理解を深め、支援について研修を行う。 ・学期に1回は校内支援委員会を開催する。また、必要に応じて開催する。	B	・学期に1回気になる子について話し合い共通理解ができた。 ・スクールカウンセラー(5月～3月、12回)への相談を啓発できた。 ・校内支援体制の作成、実行、修正できた。 ・発達障がいについての理解を深め、支援について研修を行った。 ・校内支援委員会を必要に応じて開催できた。	・職員間の情報共有、研修、SCの活用等については効果的に進めることができたので、今年度の取り組みを継続していく。 ・児童の意識「思いやり・ぽかぽか言葉」については、9割には達したが目標値には届いていない。また、友達への言葉遣いで指導すべき場面も多い。次年度に力を入れていきたいところである。
	●健康・体づくり	【あいさつ・あんぜん・ありがとう】 ・基本的な生活習慣の確立 ・体力の保持増進	・こまめに手を洗う習慣、ハンカチを身につけさせるなど衛生習慣を定着させる。「衛生的な生活」児童の意識調査で85%以上を指標とする。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」児童の意識調査で90%以上を指標とする。 ・楽しく運動する習慣を身につけさせる。 ・ヘルメット着用100%を指標とする。	・こまめに手を洗う習慣を身につけさせるため、強化週間を設ける。 ・まなざし週間の時、児童に特に取り組みたいことを決めさせ、達成状況を毎日確認する。また、まなざし週間の結果を保護者に通知する。 ・学年ごとに、児童全員が毎週外で遊ぶ曜日を設定し、実施する。 ・ヘルメット着用について機会あるごとに話題にし、意識付けとする。また、保護者会等を利用し、保護者の意識啓発を行う。	B	・手洗い指導については、毎日の昼の放送や健康委員会の児童を中心にした全校への呼びかけ等も含めて、年間を通じて実施することができた。ただ、ハンカチ忘れが少なくはなく、徹底できていない。「早寝・早起き・朝ごはん」とともに、目標値に届かずやや下回っている。 ・まなざしカードへの記入及び集計はできたものの、その結果を使った事後指導や保護者への啓発等が十分にできていない。 ・全校朝会等の生活の話の場を利用してヘルメット着用を意識づけるようにしたり、保護者との個人懇談会で話題にするようにしたが、意識調査で96%と、100%には達していない。	・手洗いの習慣については、多くの児童に身につけているが、正しい手洗い、手を洗った後ハンカチで手をふくといった点については指導を工夫していく必要がある。 ・まなざしカードを記入し、生活を振り返ることは保護者を含めて多くの児童ができているものの、まなざしカードの結果を児童や保護者と共有したり、事後の指導の手立てを講じる必要がある。 ・ヘルメット着用については、来年度も引き続き、機会を見つけて話題にして意識を高めるようにする。

④子どもへのまなざし運動と市民性を育む教育を推進する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	○特別活動	・環境教育の充実(環境ISO)	・85%以上の子どもが環境を守る行動をすることができる。	・「環境ISO」4つのめあての達成ができたか、週に1回各クラスで振り返りをする。 ・環境委員会が各学年の取り組み状況を伝える。 ・学校での取り組みの様子を地域・家庭に発信する。	B	・週に1回「できたかなボード」で振り返りし、取り組み情報を放送で伝えることができた。 ・達成状況は、「ごみの分別」が97.7%、「電気の節約」が86.7%、「水の節約」が86.2%、「物を大切に」が59.3%であった。 ・活動の周知やえひめあやめの学習に関しての発信ができた。	・「物を大切にする」＝「自分のものに記名をする」に関しての達成率が低いため、全校児童への意識づけや取組みの見直しを図る。
	○地域連携	・まなざし運動と市民性を育む教育の充実	・地域のまなざし運動と連携し、市民性を育む教育を推進することによって、市民の一員としての意識の向上をめざす。 ・「地域行事への参加」児童の意識調査で90%以上を指標とする。	・行事の意義や地域と関わることのよさを伝えたり、地域の行事への参加を称賛したりすることで、地域行事への積極的な参加を奨励する。 ・生活科・総合的な学習の時間では、まなざし運動を展開する地域の人・団体と年に2回以上は連携する。	B	・保護者・児童ともにアンケート「地域の行事に積極的に参加している」と答えた割合は85%程度であるが、職員は73%と低かった。 ・生活科・総合的な学習の時間での地域人材との交流や活用はほぼ計画通りできた。 ・子ども達は普段の生活の中から様子を気にしてもらったり、見てもらったりしており、地域の中での子どもたちへの関心が高いことがうかがわれる。	・特に公民館との連携がよく取れているため、諸団体や地域人材との連絡をスムーズに取ることができている。公民館との連携を続けるとともに、教職員の地域行事への理解と参加を進める。 ・地域・公民館行事への保護者の参加も多いが、そのことが保護者の社会参加にも役立っているので、広報活動に寄与したい。 ・生活科や総合的な学習での地域人材の活用を続けるとともに、広げるための情報収集にも取り組みたい。

⑤業務改善・教職員の働き方改革の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・役割分担と業務の適正化の推進	・業務の精選。 ・校務分掌の適正な配分。 ・時間を意識して働くことの定着。	・外部からの依頼の受け入れを一定の視点をもって精選する。①地域に根ざした教育を推進するもの②学習指導要領に沿っており児童の学びの幹を太くするもの③担当教員に過重な負担をかけないもの ・校内運営機構への配置について、業務に指数を定め、校務分掌の負担度を可視化し、適正に校務を割り振る。 ・会議縮減、定時退勤日完全実施を推進し、時間を意識して働くことを定着させる。	B	・外部からの依頼の受け入れについては、はっきりした視点をもったことで一部精選することができたが、まだ改善の余地は多くあると考えられる。 ・職員の業務ごとに指数を定め、校務分掌の負担度を可視化したことで校務を割り振りを見直し適正な配分を進めることもできた。 ・会議縮減、定時退勤日完全実施についてはあまり改善できていない。	・業務改善の方法について、トップダウン方式だけでなく、職員間に広く声を募ることでよりよい取組を探りたい。 ・校務分掌の平準化には一定の成果をあげることができたと考えるが、指数については各個人の取組状況やその年度ごとの状況で変わることがあるので、適正に進めることができるよう常に見直し・確認をしていきたい。 ・引き続き、会議縮減や定時退勤日完全実施を推進する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○学校経営方針の周知	・学校教育目標の周知徹底 ・学校HP、学校だよりによる情報発信	・保護者、児童、教職員、学校評議員、地域の方々に周知徹底し、認知度95%以上をめざす。 ・新しい情報は学校HPで発信し、情報を保護者の手元に届ける。学校だよりは行事連絡ではなく、校長の経営方針が伝わるものとする。	・全校朝会、PTA総会、地域連携協議会等で学校目標と経営の概要を説明する。また校舎内各所、学校HPなど常に目につくところに掲示し周知を図る。 ・学校HPは主に校長が管理し、必要な情報を迅速に発信し、保護者の閲覧状況を把握する。 ・学校だよりは紙面を工夫し、児童の良さ、職員の良さ、地域の良さ等を発信し、学校の応援団を増やす。	A	・学校評価アンケートで「学校教育方針の周知」項目で95%以上が「そう思う、どちらかといえばそう思う」と回答して折り、目標値を達成できた。 ・保護者や地域の来校者の、学校だよりや学校HPへの関心が高い様子がうかがえることが度々あった。学校だよりでは、児童の様子や教育活動、校長の経営方針にかかわる話等について、機会を捉えて丁寧に伝えるようにしてきた。 ・学校教育方針に関する話題や資料を提示して教職員の共通理解と意識の高揚を図ってきた。	・学校行事や授業参観等の機会を捉えて、意見・感想を求めるアンケート等に記入してもらい保護者・地域の声を広く集め、学校経営に生かす。 ・地域の来校者には学校パンフレットを配布して学校目標等を理解してもらう。

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

・保護者アンケート・児童アンケートともに本校教育活動に対しては概ね良好な評価だった。学力向上の面では、全国・県の学力調査は課題が多い結果だったが、経年比較で見ると確実に伸びている点もあり、一定の成果を上げたとも考えられる。学習指導、生活指導の面で指導の一貫性が取れていない点があるので、教師の指導力を向上させ、児童が目的意識をもって学習や生活に向き合うことができるよう、研修の充実を図って生きたい。そのためにも、小規模校の特徴を生かして、全職員の連絡・連携を密に目標達成に向けて全員の力を結集して取り組みたい。また、学校と家庭・地域の結びつきもこれまで以上に大切にし、地域全体で子どもたちを育てる機運を高めたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目